

『児のそら寝』⑤ 〈古語の特徴を捉える。〉

● 古語と現代語を比べて、ことばの使い方が文法的に違うところを見つけよう。

1	僧たち、宵のつれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」と言ひけるを、僧たちが、宵の退屈しのぎに、「さあ、ぼたもちを作ろう。」と言ったのを、この児、心よせに聞きけり。 この児は 期待して聞いた。
---	---

〈古語〉

・僧たち（が） ・かいもちひ（を） ・	「が」の省略 （ （ （
---------------------------	---

2	さりとして、 そうかといって、僧たちがぼたもちを作り上げるのを待つて寝ないようなことも	し出ださむを 待ちて寝ざらむも
---	--	-----------------

〈古語〉

・ ・ ・	 （ （ （ （ （ （
-------------	--

● 品詞

1 「いざ」「」「」「」

=

() 詞 〓 感動や応答、呼びかけを表す語

古語・・・ ああ、あはれ、あつぱれ、いや
現代語・・・ () () () () ()

2 「さりとて」

=

() 詞 〓 文と文、語と語などをつなぐ語

* 「もしければ」の「ば」は？

古語・・・ かくて、されど、ゆゑに、また、なほ
現代語・・・ () () () () ()

※ 古語の品詞・・・現代語と同じ十種類

(教科書二三六～二三七ページ、便覧四七八～四八八ページ参照)

● 活用

〈古語〉 〈現代語〉

聞く	聞き(けり)	聞い(た)
言ふ	(ける)	(た)
待つ	(て)	(て)
思ふ	(て)	(て)
をたなし／おたない	(人)	(人)